

病理診断		P000031			
		担当部署			
病理診断		病理			
検査オーダー					
患者同意に関する要求事項		該当なし			
オーダーリング手順	1	電子カルテ→指示②→病理組織検査→			
	2				
	3				
	4				
	5				
検査に影響する臨床情報		「病理組織検査標準作業手順書」・「細胞診検査標準作業手順書」・「免疫組織化学染色標準作業手順書」に準ずる。			
検査受付時間		8 : 15～16 : 00			
検体採取・搬送・保存					
患者の事前準備事項		手術、及び内視鏡、穿刺等の侵襲的検体採取では様々な準備が必要となるため、各々の担当医師、担当看護師等の指示に従う。			
検体採取の特別なタイミング		特記事項無し			
検体の種類		採取管名	内容物	採取量	単位
1	組織診標本 (スライド)	該当なし	該当なし	該当なし	枚
2	細胞診標本 (スライド)	該当なし	該当なし	該当なし	枚
3					
4					
5					
6					
7					
8					
検体搬送条件		該当なし			
検体受入不可基準		「病理組織検査標準作業手順書」および「細胞診検査標準作業手順書」に準ずる。			
保管検体の保存期間		スライドガラス：半永久 ＊ 保管検体から再検査をオーダーする場合は要連絡			

検査結果・報告					
検査室の所在地		病院棟 3 階 病理診断科			
測定時間		1) 組織診：4 日～28 日 2) 術中迅速凍結組織診：20 分～30 分 3) 細胞診：3 日～7 日 4) 術中迅速細胞診；20 分～40 分			
生物学的基準範囲		該当なし			
臨床判断値		該当なし			
基準値				単位	該当なし
共通低値	共通高値	男性低値	男性高値	女性低値	女性高値
該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし
パニック値	高値	該当なし			
	低値	該当なし			
生理的変動要因		該当なし			
臨床的意義		患者から得られた材料の病理形態学的な方法による検査を病理検査と総称している。病理検査では、組織及び細胞に生じる器質的あるいは機能的な変化を直接観察することができるので、その臨床的意義は大きい。病理検査には、生検や手術材料の組織に対する組織診や、液状検体や病巣部からの穿刺、擦過や捺印で得られる細胞に対する細胞診がある。検査内容は検査技術の進歩により質的にも著しく変化している。 病理検査には従来から用いられてきた形態学的手法に加えて、分子生物学的手法も取り入れられている。例えば肺癌においては組織型決定にとどまらず、最新の分子生物学的手法を用いた検査も必要であり、これらの結果が治療法選択や患者予後の推定に反映される。また軟部腫瘍では組織型決定に際して免疫組織化学に加え、分子生物学的手法が多くの場合で用いられ、その診断に重要な役割を担っている。 臨床検査法提要改訂第 34 版：1375,2015.			